

ドキュメンタリー映画

旅する

カジの木

# 倭文



監督

北村皆雄

2023年11月24日(金)

徳島市シビックセンター さくらホールにて特別試写会を開催!

時間	第1部 開場 13:30、上映 14:00～／第2部 開場 18:00、上映 18:30～ (上映時間 1 時間 58 分。各部上映終了後に北村皆雄監督、石川文江ほかによるトークあり。)
場所	徳島市シビックセンター さくらホール (徳島市元町一丁目 24 番地アミコ内 4 階、電話番号 088-626-0408)
チケット購入	前売券 1000 円 (小山助学館本店、平惣・徳島店にて販売中) 当日券 1300 円
主催	映画「倭文」を観る会 (石川文江、福永二郎)
後援	徳島市、徳島新聞社、四国放送、朝日新聞徳島総局
問い合わせ窓口	電話番号 090-2338-9158 (石川)



# しづり 一幻の織物 倭文とは一 カジの木が渡った海の道をたどり、〈衣〉の始源に迫る旅

『日本書紀』や『万葉集』に

カジの木の樹皮を糸にして織られた幻の織物〈倭文〉が登場する。

しかし、現物は残っておらず、その実態は謎に満ちている。

古来、カジの木は最上の衣となる植物だった。

その伝統は今も、阿波の木頭の太布づくりに受け継がれている。

カジの木から作られる糸は白く、光の象徴とされ、神聖視された。

倭文には〈神秘的な力＝呪力〉が込められていたのではないか。

阿波忌部氏が大嘗祭で天皇に調進する布、〈荒妙＝籠服〉は倭文であった。

忌部氏は黒潮の道を北上し、カジの木と織物の技術を各地に伝えていった。

カジの木と倭文の謎は解き明かされるか。

## 5年の歳月をかけてついに完成

語りは世界のトップモデル、富永愛。

神話再現は舞踏家 磨赤兒と大駱駝艦

もと水曜日のカンパネラのボーカル、KOM\_I (アーティスト)。

倭文の創造的復元に挑むのは、山口源兵衛 (西陣帯匠)、石川文江 (楮布織 / 徳島在住)、西川はるえ (染織家)、妹尾直子 (紙布織 / 樹皮布) の4人。

撮影 明石太郎 戸谷健吾 北村皆雄 門馬一平 Andi Afran Sabran  
照明 小西俊雄  
音響・整音 斎藤恒夫  
音楽 渥美幸裕  
音楽デザイン 神 央  
編集 田中藍子 戸谷健吾  
監督助手 高橋由佳  
タイトルデザイン 杉浦康平 新保韻香  
CG 山田みどり  
配給 遠藤協  
協力 河野徳吉 小林良生 三木信夫 鈴木三男 小野林太郎  
福本繁樹 坂本勇 林博章 大沢喜和  
徳島県立博物館 阿波太布製造技法保存伝承会 徳島県立埋蔵文化財調査センター  
公益社団法人三木文庫 アワガミファクトリー 大麻比古神社 忌部神社  
静岡大学農学部応用生命化学科 本橋令子  
山梨大学総合分析センター 瀬川高弘  
中央研究院歴史言語研究所 台湾史前文化博物館

制作 三浦庸子  
監督 北村皆雄  
製作著作 ヴィジュアルフォークロア

助成 文化庁文化芸術振興費補助金  
(映画創造活動支援事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会

